

町教育委員会との連携を図った取組

取組の内容

新地町立駒ヶ嶺小学校

新地町では、町教育委員会のキャッチフレーズ「信頼の灯をともしよう」の実現に向け、4つの小中学校が足並みをそろえて不祥事防止に取り組んでいる。駒ヶ嶺小学校では、町教育委員会との連携を図りながら、校内サービス倫理委員会の充実に努めている。

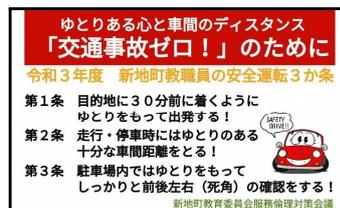
1 講師として教育長を招いての委員会開催

年度初めの第1回サービス倫理委員会には、教育長を講師として招き、信頼される学校づくりについての意識を新たにしている。「体罰、わいせつ、交通事故」など身近に起こりかねない不祥事の防止について、教育長の経験談を交えながら、全職員で共通理解を図っている。この取組は、町内4小中学校で行われており、町全体として不祥事防止に取り組もうとする意識の高揚につながっている。



2 「交通事故ゼロ！」のための安全運転3か条

年度初めの町校長会において、教育長や教育委員会の指導主事と、これまでの教職員による交通事故の実態や校長として感じている交通事故に対する危機感などについて話し合った。それらの意見を集約し、教育委員会サービス倫理対策会議として「安全運転3か条」を作成した。校内サービス倫理委員会では、カードを渡ししながら、3か条について説明し、共通理解を図った。



3 不祥事を「自分事」として捉えるために

毎月行われる町校長会では、県内外で起きている教職員による不祥事や児童生徒に関わる事件・事故について、その防止策や対策について話し合われる。それらの内容を校内サービス倫理委員会では必ず話題に出し、身近で起きている事象を「自分事」として教職員に考えてもらう機会をつくっている。また、県からの通知や新聞記事になった不祥事については、すぐに印刷して教職員に配付し、会議や打合せにおいて話題にするようにしている。



成果と課題

- 本校のみならず、「新地町から不祥事を出さない」という教職員の意識が高まった。
- 教職員が勤務する町の実態に合った「重点事項」等が明確となっているため、身近に起こりうる事象として、みんなで気を付け合っていこうという意識が高まった。
- 町との連携を図りながらも、本校教職員の実態に合わせたサービス倫理委員会の開催に努めたい。
- 各分野の専門家などを外部講師として招き、教職員のニーズに合った専門的な研修を行っていききたい。